宗谷管内・学校図書館活性化推進事業報告書

学校図書館の効果的な活用に向けて

平成２６年８月１１日　宗谷教育局

学校図書館の効果的な活用や魅力ある学校図書館づくりなどを目的とした学校図書館活性化事業を８月１８日（月）に浜頓別町立浜頓別中学校を会場に開催しました。

管内の各市町村から学校関係者や公立図書館職員など１１名が参加し、子どもにとって一番身近な図書館である学校図書館の一層の充実について、講話や実践発表、ワークショップ等を通じて、学校図書館の一層の活性化について研修を深めました。

【講話】今、求められている学校図書館

全国学校図書館協議会学校図書館スーパーバイザー　野村　邦重　氏

〇すべての学習のベースは「読む力」にあり、読書の時間で培われた力は、他の強化や日常生活の中で必ず活かされる。

〇朝読書の４原則は、①みんなで、②毎日、③好きな本を読む、④ただ読むであり、各教員の理解を図り、全校で取り組む必要がある。

〇職員室や校長室には設置義務はないが、学校図書館は学校図書館法で設置が義務付けられており、学校教育に欠かせない基礎的な設備であり、教育課程の展開に深く寄与するものである。

〇学習指導要領に示された思考力・判断力・表現力などの育成のために、言語活動の充実が不可欠であり、ねらいを明確にした「読書活動」の推進、望ましい読書習慣の確立に向けた「朝読・家読」の推進、学校図書館を活用した情報活用能力の向上が求められている。

〇学校図書館資料の整備・充実に向け、校長のリーダーシップのもと、司書教諭が中心となって、学校図書館機能の充実を図ることが大切である。

〇学校図書館は、学校の心臓部であり、どれくらい使われているかでその学校の質が分かる。

〇学校間の連携を進めるために、例えば、学習活動で必要となる図書を融通し合うなどの取組が考えられる。

【ワークショップ】“子どもが集まる”学校図書館の環境づくり

北海道立図書館総務企画部企画支援課長　吉原　和歌子　氏

ワークショップ実施前の浜頓別中学校学校図書館

○書棚に蔵書がびっしりと詰め込まれた状態
○閲覧スペースとして、隣接する和室を生徒に開放していたが、利用が少ない状況
○新書を表出しするなど、担当者が工夫しながら配架しているものの、分類については、見直しが必要
○半数以上が文学に分類される蔵書
○スペースが限られており、書棚は隙間なく設置された状態

浜頓別中学校の先生方も、現在の図書館を工夫して使いながらも、抜本的な改善を強く望んでいた。参加者は講師を囲みながら、改善方法について、協議し、図書館自体の空間と、書棚にも空間を確保することが最優先と考え、除架作業を行うこととした。

ワークショップ実施前の図書館

除架作業の体験

低い書棚を新たに図書館の一部としたスペースに出し、文学の書籍を移動した。

空になった書棚に、分類番号を仮づけする。

書棚に十分なスペースを設けるとともに、表出しをすることで、新しい読書環境ができあがった。

参加者の感想

時間、人手ともに、予想していたほどではなく、所属校でも取り組みたいと思った。

除架、除籍のルールをしっかり合意形成した後で、作業を始めることが大切だと思った。

除架した書籍を保管するための場所を確保するにあたり、町教委の協力が必要になることが分かった。

新たに書籍を並び終えたあと、「図書館が新しくなった。」「新しい本が増えた。」という感想が出ることに、驚きを覚えた。

所属校は、支援員、司書、司書教諭など、学校図書館を支える人材が、決して豊富な場所ではない。「できることから手を加えていくことが大切」という講師の言葉は、非常に心強く、まずは、教員でできることが何かを考えようと思った。

学校図書館の環境整備に、公立図書館や社会教育行政担当者の支援が必要であること自体、意識が薄かった。学校外の支援により、子ども達にとって最も身近な図書環境が改善されるのであれば、今後、積極的に関わっていきたいと思う。